

## 平成 25 年度調査研究等計画書

<b>事業名</b>	カンパチ種苗量産技術開発試験			
<b>事業年度</b>	平成24~26年	<b>事業費</b>	3,105 千円	<b>担当者</b> 増養殖環境課
		<b>財源</b>	(-) 3,105 (国) (諸)	渡辺 貢
<b>【背景・目的】</b>				
<p>平成 22 年の生産量が 4,146 トンで全国 3 位の本県養殖カンパチは、種苗のほとんどを中国産天然種苗の輸入に依存しており、現在 57 経営体が約 120 万尾の種苗を導入している。しかし、近年の中国国内の蓄養地の減少から供給量の減少が懸念されていることに加え、平成 17 年に発生したアニサキス寄生問題や国内未進入疾病を持ち込む可能性など防疫上の問題点も指摘されている。</p> <p>そこで、水産試験場と県内民間種苗生産会社との共同研究により、カンパチ人工種苗を安定的に量産する技術を開発して、県内カンパチ養殖業者に人工種苗を供給する体制をつくることで、県内カンパチ養殖業の競争力強化と経営安定に資する。</p>				
<b>【事業の概要】</b>				
<p>県内民間種苗生産会社との共同研究によって、カンパチの優良人工種苗を安定的かつ量産する技術を開発する。</p> <p>県内民間種苗生産会社が種苗生産段階の技術開発を担当し、水産試験場は養殖段階における人工種苗の品質を評価する。</p>				
<b>【全体計画とこれまでの成果】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖段階における人工種苗の品質を評価する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①変形率発生状況調査</li> <li>②中国産種苗との品質比較</li> <li>③配合飼料による養殖方法の確立</li> </ul> </li> <li>・他の機関から提供された受精卵を用い、約 1 万尾の稚魚を生産（生残率約 5%）できた。</li> <li>・A 産人工種苗は全体的に体高が高く、10%ほど形態異常（脊椎骨側弯、頭部陥没など）がみられた。</li> <li>・B 産人工種苗は土佐湾産天然種苗に比べて成長が劣り、抗病性や低水温耐性も低い傾向がみられた。</li> </ul>				
<b>【25 年度計画】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>①変形率発生状況調査             <ul style="list-style-type: none"> <li>養魚期間中の定期的なレントゲン撮影による骨格異常等を調査</li> </ul> </li> <li>②中国産種苗との品質比較             <ul style="list-style-type: none"> <li>成長・飼料効率・歩留まりなどの飼育成績の比較</li> </ul> </li> <li>③配合飼料による養殖方法の確立             <ul style="list-style-type: none"> <li>人工生産カンパチ 0 歳魚育成に適した市販配合飼料の検索</li> </ul> </li> </ul>				
<b>【成果目標】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画生産と周年出荷による販路の拡大と出荷価格の安定</li> <li>・高品質で安全・安心な高知産カンパチブランドの確立</li> <li>・配合飼料への切り替えによる環境に優しいカンパチ養殖の実現</li> <li>・県内におけるカンパチ種苗供給地の形成</li> </ul>				
<b>【期待される効果】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖用カンパチ人工種苗の安定供給によって種苗コスト削減と周年出荷が可能となり、県内カンパチ養殖業の活性化が期待される。</li> <li>・浦ノ内湾では、低価格化が進むモジャコに替わりカンパチ種苗供給地が形成され、県内種苗業者の競争力強化と経営安定につながる。</li> </ul>				